

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101528		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム 中川のより道		
所在地	長崎県長崎市中川1丁目7番14号		
自己評価作成日	令和3年1月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 3月 9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常的に自治会や地域住民との関わりがあり、顔なじみの関係を築くことができている。毎月のケアカンファレンスにてご利用者様一人ひとりに焦点を当て、日々変わっていく身体状況や認知症状に合わせたケアの方法について職員全員が意見交換を行いチームとして問題解決に努めている。また、定期的に法人内研修や外部研修に参加し、職員一人ひとりの専門的なスキルアップにも積極的に繋げている。施設内では、ご利用者様の健康管理について主治医との連携、看護師を中心に、職員全員で努め早期発見、対応することができている。また、希望の方に対しては看取りケアも行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、交通の利便性が良く訪れやすい環境にあり、家族の面会も多い。避難訓練に地域住民が参加する協力体制があり、古布の提供や花の開花時に鉢植を持って来るなど、日常的に住民との交流があり信頼を得ている。利用者を尊重し尊厳を守る支援を柱に、職員はより良い介護を考える風土の下、利用者の「生活の質」を充実させるために何が出来るかを積極的に意見を出し合い、共有するチームワークの構築がある。利用者にとって良かったと喜んでもらえるように「最期にかかわる仕事」として職員の看取り支援の意識は高い。看護師職員と主治医、職員の連携体制は利用者や家族の安心を得、家族が自分の悩みも相談するなど信頼関係は深く、看取り後、実家の様だったと感謝の言葉が届いている。職員の誕生日に利用者や職員全員でハッピーバースデーを歌って祝う様子はさながら理念の「大家族」であり、利用者が尊厳を持って暮らしているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と「大家族を作ろう」のテーマに自立支援を常に優先しながら日々のケアを実践している。具体的なサービス計画の検討の際にも理念に基づいて話し合っている。	法人理念「大家族を作ろう」に沿って、本人の意向を尊重しながら支援している。法人内研修“倫理規定”では、理念の意味や目的について理解を深めている。利用者と職員の穏やかな表情やホーム全員で職員の誕生日に歌を歌って祝う様子など理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には日頃より新聞紙や古着を頂いたり、利用者様の健康状態を気に掛けた挨拶をして下さる。運営推進会議についても書面にて参加して頂いている。	新型コロナ禍による自粛前までは、地域行事や保育園の卒園式に利用者と共に参加し、ホーム内で園児と節分の豆まきを楽しんでいる。日頃から近隣住民からマスクや古布、新聞紙の提供を受けている他、ホームは地域住民に年賀状や暑中見舞いを送り、繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、書面にてケアの工夫や取り組みを報告している。見学者や外来者にも相談に乗ったりと支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故の内容を具体的な報告や、個別支援、ご家族の要望、希望を報告しており、意見をケアへ活かした取り組みを報告している。	規定通り2ヶ月ごとに開催しているが、今年度は新型コロナ禍により、書面会議を行っている。運営推進会議構成メンバーへ活動状況報告書を配付し、その後議事録を市へ提出している。ただし、議事録に、各委員からの質問や意見、またそれに対するホームの返答などの掲載は確認できない。	書面会議においても、運営推進会議構成メンバーと質問や意見などを交わし、サービス向上に活かしていくことが望まれる。更なる参加者からの意見等の抽出の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への市職員の参加や、書面、広報誌を通して活動を報告している。	行政担当職員に、ホームの実情や取り組みを積極的に伝えている。また、運営における不明点を問い合わせ情報を得る等、協力関係を築いている。手続き等で必要時には本部とその都度連携を図り、新型コロナ禍による介護サービス事業所職員に対する慰労金申請も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会の開催、内部研修にも参加している。利用者様の行動を抑制することなく対応に努めている。	毎月法人本部で身体拘束廃止委員会を開催しており、管理者が職員へフィードバックしながら、指針を基に身体拘束を行わないケアに努めている。スピーチロックにおいても都度注意し合っている。ただし、職員研修は年1回の法人内研修のみである。	身体的拘束等の適正化の推進において、規定にある定期的な年2回の研修の開催に向け、取り組んでいくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止委員会の開催、内部研修への参加、職員の意識の向上に努めている。また、日々のケアが虐待に繋がらないように注意し、メンタルケアにも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、日常生活自立支援事業や青年後見人制度について、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者様とご家族様に詳しく説明し、疑問や不安が残らないようにし、同意を得ている。解約、改定の際も同様に対応し、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族に対し、健康状態等について報告し、遠方のご家族にもメール等にて意見や要望をもらっている。苦情解決実施に向け、第三者委員の会議への参加も得るようにし、機会を設けている。	苦情相談窓口や手順を明文化し、契約時に家族に説明している。家族の要望は面会時に聞くことが多い。新型コロナ禍による面会制限があり、毎月、利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態を写真を添えて送付し、家族の安心に繋がるよう配慮している。また、電話やメール、手紙などで意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は利用者様の様子や介助方法について、会議などで積極的に発言しており、一人ひとりが、より良い介護について考える、といった風土が構築されている。	職員は毎月の職員会議や日々の業務の中で、管理者に意見要望を伝えている。また、法人役員やホーム管理者は頻繁に職員へ声掛けし、個人面談を行い、職員の意見を聞き取っている。管理者は職員からの推薦であり、職員との垣根は低く、チームワークは良い。トイレの柵の設置など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休假日の希望はほぼ叶えられており、有給も定期的に消化している。各自のレベルに応じた研修や学習への参加、資格取得を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに年2回目標を決め、毎月の法人内研修、必要に応じた外部研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議を通して、同業者との情報交換や交流による知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族の話から生活歴、嗜好などの情報を収集、整理し、職員全員で共有、会話の糸口としている。また、他利用者様との仲を取り持つ工夫もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に利用者様を深く観察し、ご家族と密に連携を取ることで、課題を早急に明確にし、解決できるよう支援することにより早く信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのかかりつけ医の紹介や、これまでの医師を変更する必要はない事を説明している。身体状況に応じた福祉用具の提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの役割を見出だす工夫をしており、日々、洗濯物たたみや裁縫、洗い物などの協力をして頂いている。職員が利用者様に教えてもらう場面も多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策として、面会等は制限を設けている現状。施設管理のタブレットによる写真や動画の送付、テレビ電話等出来るよう整備している。オンライン上のやりとりが困難な方に対しても、手紙や写真の送付など対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策として、面会等は制限を設けている現状。施設管理のタブレットによる写真や動画の送付、テレビ電話等出来るよう整備している。オンライン上のやりとりが困難な方に対しても、手紙や写真の送付など対応している。	家族や親戚の他、友人や教員時代の教え子、自宅近辺の住民等が面会に訪れている。馴染みの商店街へ出掛ける利用者もいる。新型コロナ禍では、携帯電話や手紙で交流している。ホームは家族とテレビ電話で面会できるよう整備を行い、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話ししやすい様、隣同士に座って頂く配慮や、難聴の方には職員が間に入り、会話が円滑になるようにフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所になられた際には、必要に応じて、ご家族との相談や、法人内の事業所を紹介するなど支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との会話などからニーズの把握に努め、会話が困難な方に対しても、以前の情報や、ADL、IADLから本人本位に検討している。	職員は毎日、利用者と一緒にゆっくり会話する時間を作り、利用者の意向を汲み取り、暮らしやすいリズムを把握し共有している。起床、就寝時間や日中の過ごし方は自由である。難聴や発語困難な利用者、意思表示が苦手な利用者は表情や動作などで判断している。把握した思いは記録し職員で共有し、介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話などから生活歴等の情報を収集し、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なかかりつけ医の往診や、個別のADLや持病、認知症の程度や内容を元に、ご本人様の生活リズムを細かく記録することで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のカンファレンスや職員会議にてケアについて検討するとともに、ご本人様やご家族との面談を行い、介護計画に活かし、月1回は振り返るようにしている。	利用開始から1ヶ月の暫定プランを立て、短期3ヶ月・長期6ヶ月の計画を作成している。毎月のケアカンファレンスでは、担当者が利用者の変化や意見などを発表し、それを基に職員全員で検討し計画を見直している。支援経過記録から目標に沿った支援の実施状況が確認できる。面会時や電話等で家族の要望を得て反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や発言、具体的な介護と反応がわかるように支援経過記録へ記載し、情報を共有している。毎月の職員会議にて、個々の利用者様の介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望のあった際に外泊を行ったり、誕生日やクリスマスなど、イベント時の写真をご家族様に送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民から古新聞や布切れの提供があったり、施設外でも見かけたら挨拶しあったりと顔なじみの関係でいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を選んでもらうようにしている。かかりつけ医とご家族様が面談できるようにし、ご家族様の都合が悪い際には、受診時や電話で相談できるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続し、通院は家族同行で結果報告を記録している。場合によっては、職員が同行している。協力医に移行し2週間毎の往診を受けている利用者もいる。訪問歯科や皮膚科の往診等本人・家族の希望に沿って受診している。常勤の看護師が主治医と連携し、夜間緊急時等指示を仰ぎながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う様子を発見した場合、速やかに看護師に報告し、かかりつけ医に相談するシステムが出来ている。異常を早期発見することで利用者様の入院が少ない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際から、医師や看護師などと連携を取り、入院中の状態や症状の経過を尋ねたり、連絡も来ている。退院許可が出たらご家族様と相談の上、早く退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様に終末期のあり方の希望を聞いている。また、医療処置等についての意思を記載した看取りについての事前確認書を作成している。	昨年度、看取り支援を行っている。利用開始時に重度化した場合の指針を家族と共有している。終末期は主治医の意見を基に再度説明し、家族の心の揺れに配慮し、体調の変化に合わせてその都度同意書を交わしている。職員と家族が協力して、利用者への思いを共有した看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修や勉強会にて知識や技術の向上に努めている。消防署主催の救急法にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理者の指導の下、毎月の消防訓練時に防火管理の向上、災害時の対応を訓練している。各居室前に部屋番号のプレートを掲げ、裏面にすることで避難完了の確認としている。	毎月の自主訓練では様々な想定内容が確認できる。総合訓練は年2回実施し、内1回は新型コロナ禍の為消防署立会いが中止となっている。前回の評価後、居室名を花の名前から番号に変更し、プレートを裏面にすることで避難完了と定めている。ただし、自然災害については、独自のマニュアル整備、職員への周知が十分ではない。	自然災害対策として、ホーム内に留まるとした際の独自のマニュアルを整備すると共に、全職員への周知徹底に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不特定多数いる所では特にトイレ介助や失敗時など羞恥心に細心の注意を払っている。写真の取り扱いに関する確認、同意書は現在作成中。	職員は利用者の尊重と尊厳を守る支援を常に心掛けており、排泄支援や入浴介助時は羞恥心に配慮し、居室へはノックや声掛けして入室している。個人情報の取扱いは、写真掲載を含め同意の署名を得ている。また、職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出し理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気がけて言葉かけを行い、思いや希望を表情や様子から把握するようにしている。1対1でゆっくり話す機会を持ち、ご利用者様の声に耳を傾けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の全てにおいて利用者様のペースやリズムで過ごして頂く事が優先と考えている。また、希望も適宜聞いていき、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、整髪の心がけと、季節に合った身だしなみや、化粧やマニキュアを塗ったりと対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器選びや盛り付けで料理の見た目も工夫している。また、食欲や体調に応じ、おかゆやムース食など代替え対応やトロミ付けなどを行っている。ご利用者様には食前のテーブル拭きや食器の後片付けを率先して行ったださる方もいる。	配食サービスを利用しており、アレルギーや嗜好、嚥下状態に合わせ、代替品やトロミ剤を使用している。利用者は下膳や食器洗いなど出来る所を手伝っている。行事の時は職員手作りの料理をプラスし、誕生日には好きなおやつや家族の差し入れの刺身で祝っている。また、職員と一緒にのおやつ作りは利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分量を毎日記録している。摂取水分量の少ない方には、形態や味を変更して提供するなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、口腔内の状況に応じて、ブラシ、歯間ブラシ、スポンジブラシ、口腔テッシュを活用した口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、パットを使用している方や尿意の希薄な方もトイレで排泄できるよう排泄リズムの把握と誘導の工夫を行っている。定期的な誘導以外にも、訴え時や様子をみてお連れしている。	職員は排泄状況を記録し、利用者の排泄リズムや状況を把握共有し、声掛けや誘導を行っている。日中は座位排泄を基本としている。夜間のポータブルトイレは使用の都度、洗浄し、気持ちよく排泄できるよう心掛けている。職員は排泄状況を基に、利用者にあった支援方法を検討するなど自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶やコーヒー、乳酸菌飲料、果物を適宜提供することで十分な水分摂取を促し、食前のテレビ体操を行い、参加を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を目安に声掛けを行っており、その他本人様希望時にも可能な限り対応している。浴槽を跨ぐのが困難な方にもゆっくり浸かっただけのようリフト浴を整備している。	入浴は週2、3回を基本とし、利用者の気分や体調に応じて時間や曜日を変更している。リフト浴を設置しており、車椅子の利用者も浴槽に浸り、入浴を楽しんでいる。同性介助や好みのシャンプー類の持ち込みに対応し、季節の菖蒲湯やゆず湯など、入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は設けておらず、本人様の希望で対応している。眠れない方には職員と共にお話を過ごしたり、温かい飲み物でリラックスして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に与薬できるように一包化や粉末化などの工夫や、医師の指示のもと、看護師が下剤の調整を行っている。薬の準備から服薬まで複数人でのチェックを決めており、誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や、洗濯物干し、たたみ、縫物など家事の役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や趣味に応じた個別の外出支援を検討している。外出の難しいなかで、風船バレーや折り紙、かるたなどの室内レクリエーションの充実を図っている。	ホームでは個別の外出を積極的に支援している。近くのコンビニエンスストアへ買い物に行ったり、コンサートへ出掛け外食する利用者、馴染みの繁華街に頻繁に出掛ける利用者もいる。外出の制限がある新型コロナ禍では、外気浴や天気の良い日の日光浴など気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金をご本人様が管理される方はいらっしゃらないが、外出支援時に事前にご家族様に伝え、必要な分を持たせて頂いている。その際の支払いはご本人様でしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人からの手紙や写真は居室に見やすい位置に掲示している。また施設管理のタブレットを活用し、テレビ電話を行えるよう整備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や植物を飾ったりしている。また、エアコンや加湿器等による空調管理にも配慮している。	ホームは共有空間の装飾を目標に定め、ひな人形や植物など季節感を採り入れている。リビングではテレビを観たり、机で新聞を読むなど思い思いに過ごしている。また、職員と一緒に穏やかな表情で寛ぐ様子も窺える。新型コロナウイルス感染対策として換気の徹底の他、消毒液や空気清浄機などを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一応の席や居場所を決めているが、その時の状況や、利用者様同士の語らいの為、席を変えたり、ソファで過ごして頂くなど柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご家庭で使用されていた馴染みのある家具や小物などを自由に持ち込んで頂いている。また、定期的なシーツ交換や清掃により清潔の保持に努めている。	使い慣れた小物や家族写真、季節行事の写真を飾り、落ち着いた居室である。絨毯を敷き机の前に座り読書や書き物を楽しんだり、窓際に小型の洗濯物干しを置き、洋服を自由にハンガー掛けするなど、これまでの暮らしを継続する様子が窺える。地震対策の器具を取り付けている他、職員は清掃、寝具交換等、環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々のADLを把握し、ご利用者様の使いやすい物の配置や、適切な福祉用具の導入・調整などの工夫を行っている。		